

第三期射水市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果
について

1 調査目的

「第三期射水市子ども・子育て支援事業計画」を新たに策定するにあたり、本市の現状と課題を把握するとともに、第三期計画策定に必要な基礎資料とすることを目的に本調査を実施しました。

2 調査対象（市内在住者）

未就学児保護者（1,500名）、小学生保護者（1,200名）
ひとり親家庭（617名）、小5保護者（743名）
中2保護者（846名）、中学生（1,606名）
高校生（865名）

※ 中学3年生及び高校3年生は調査対象から除きました。

※ 高校生は市内の県立高校に通学する生徒で、市内外は問わない。

3 調査方法

調査票を郵送配布し、郵送回収及びWEB回収

※小5保護者、中2保護者、中学生、高校生は、学校単位で調査票を郵送し、
学校で児童及び生徒に配布

4 調査期間

令和6年3月8日から4月5日

5 回収状況

調査種別	回収率	調査票配布数	調査票回収方法	
			WEB	郵送
未就学児保護者	52.8%	1,500通	401通	391通
小学生保護者	59.4%	1,200通	389通	324通
ひとり親家庭	44.4%	617通	136通	138通
小5保護者	45.6%	743通	198通	141通
中2保護者	37.8%	846通	229通	91通
中学生	69.7%	1,606通	592通	527通
高校生	77.2%	865通	507通	161通

6 回答結果

調査票の調査種別の内容に応じて、以下の四つに分けて分析しました。

調査種別	子ども・子育て支援ニーズ調査	子育て家庭アンケート調査	子どもの生活状況調査	ヤングケアラー調査
未就学児保護者	○			
小学生保護者	○			○
ひとり親家庭		○		○
小5保護者		○		○
中2保護者		○		○
中学生			○	○
高校生			○	○

子ども・子育て支援ニーズ調査

子ども・子育て支援ニーズ調査の中で、本市の子育て環境や支援の満足度を「5」を最も高い満足度とした5段階評価で回答していただきました。「4」と「5」の合計が「満足」、「1」と「2」の合計が「不満足」としました。居住地域における子育て環境や支援への満足度は、未就学児保護者と小学生保護者ともに最も満足度が高い地域は、大門中学校区である「南西地区」（未就学児保護者 47.7%、小学生保護者 44.6%）になりました。

子育て環境充実への取組に対する満足度は、未就学児保護者、小学生保護者ともに「3」（未就学児保護者 43.7%、小学生保護者 53.2%）が最も高くなりました。

子育て支援施策に対する満足度は、未就学児保護者は「満足」が70.3%、「不満足」が9.4%、小学生保護者は「満足」が72.3%、「不満足」が7.9%であり、ともに「満足」が「不満足」を大きく上回る結果となりました。

子育て家庭アンケート調査

ひとり親家庭の利用したい支援やサービスは、全体では「学校や家庭以外で子どもが無償で勉強を学べる支援」が58.8%で最も高くなっています。世帯収入別にみると、[200～299万円]以外の層では、「学校や家庭以外で子どもが無償で勉強を学べる支援」が6割を超えて最も高くなっています。[200～299万円]では、「保護者が送迎しなくても、子どもの移動や交通手段を支えてくれるサービス」が57.9%で最も高くなりました。

子どもの生活状況調査

本市の学校に通う中高生に対して、行政に求める支援や相談したいことを自由回答として募集したところ、500件を超える意見が集まりました。中学生から寄せられた意見は、「教育の質・内容、方法」が最も多くなりました。「教育の質・内容、方法」の具体的な意見としては、「課題によってやりたい学習が後回しになる」や「個々にわかるように勉強を教えてほしい」という意見が寄せられました。高校生から寄せられた意見は、「学習環境の拡充」が最も多くなりました。「学習環境の拡充」の具体的な意見としては、「学習スペースを増やして欲しい」や「図書館等の学習できる施設を増やして欲しい」という意見が寄せられました。

ヤングケアラー調査

保護者のヤングケアラーの認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が7割弱から8割弱とそれぞれ最も高くなっています。中高生のヤングケアラーの認知度は、中学生では「聞いたことはない」が56.7%で最も高くなっており、高校生では「聞いたことがあり、内容も知っている」が46.7%で最も高くなっています。調査項目にて、世話をしている家族が「いる」と回答した中学生のうち、自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した中学生の割合は16.4%、「あてはまらない」と回答した割合は63.9%、「わからない」と回答した割合は18.0%となっています。高校生では、世話をしている家族が「いる」と回答した者のうち、自身がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した者の割合は17.6%、「あてはまらない」と回答した割合は47.1%、「わからない」と回答した者の割合は35.3%となっています。中高生ともに、自らをヤングケアラーであることを認識していない子どもが一定数存在することが考えられます。